

認定NPO法人 北海道自由が丘学園・ともに人間教育をすすめる会

(振込先:郵便局 02790-6-9847 北海道自由が丘学園をつくる会)

〒062-0051 札幌市豊平区月寒東1条15丁目5-11 TEL(011)858-1711 FAX(011)858-1333

URL <http://www12.plala.or.jp/hokjioka/> →変更:www.hokjioka.net E-mail : codmokan@agate.plala.or.jp

支援会員・寄金 3,000円 (年額)
*会員には、本誌を配布します。



《写真説明》' 14.10月

「技術工作タイム」

毎週木曜の午後、理科の実技。木工から金属加工までを小中学生が熱心に取り組めます/この日はアルミ溶解・事前作成の型に注入とダイシック作業。(右下がレガと石膏で作った型枠!)

INDEX

P1: 巻頭言/

P2: ヒューマントラスト/
普及協同活動

P3: ↓ 11/8 防災教室

p4: 時事、カンダー、他

別紙:【年末物販2014】

○ 鶴川ししゃも/最高級品

○ 南部せんべい/送料無料

○ 玉子スープ[新]フカヒレ豚汁

近隣諸国理解と「地球に生きる」科

認定NPO法人北海道自由が丘学園・ともに人間教育をすすめる会
代表理事 大塚 勲

数年前から、「中国は大嫌い」などと言う子どもの少なくなることが気になっていた。先日、ある授業で中国や朝鮮が話題になった時、「中国(人)ってずるい」とか「韓国(人)ってひどい」などと言う生徒がおり、それを聞いた他の子どもも同調して、「あんな国はなくなればいいんだ」とまで言う者もいた。

尖閣諸島・小笠原をめぐる中国の行動が数多く報道され、「反中・嫌韓」本の相次ぐ出版やヘイトスピーチの登場などの影響からか、中国や韓国についての根拠のない話や一方的で偏見に満ちた意見も子どもに伝わりやすく、受け入れやすい状況が進んでいるようだ。また、子どもたちの、各国それぞれの歴史や相互の深い結びつきを学習する機会の少なさや、直接に相互交流する機会の少なさも、こうした傾向になりやすい一因なのかもしれない。

当学園=月寒スクールには、「地球に生きる科」という授業が週に1コマあり、主に環境問題や自然、生き物、エネルギーなどの学習を積み重ねてきた。今後は、自由が丘の子どもが、日本も中国も韓国もみな「地球に生きる」仲間であり、ともに環境問題の解決や平和で豊かな世界実現のために手をつなぐべき仲間であると思ってくれることを期待しながら、近隣諸国理解を深めるような授業も「地球に生きる科」の大事なテーマにしたいと考えている。

[注:筆者は10月理事会において本認定NPO法人の代表理事に就任しました(複数体制)]